

**1 耐震安全性の分類「I類」**

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準（平成25年版）」における大地震（震度6強から7程度）に対する構造体の耐震安全性の分類であり、I類は大地震後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとするよう定められている。

**2 重要度係数1.5**

分類に応じて、目標とする耐震安全性を確保するため、必要な水平方向の抵抗力（必要保有水平耐力）を割り増す係数。

区分	分類	重要度係数	耐震安全性の目標	対象施設
構造体	I類	1.5	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。	拠点庁舎 拠点病院
	II類	1.25	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。	学校、病院、 避難施設など
	III類	1.0	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られるものとする。	上記以外の 官庁施設

**3 ガス・コージェネレーション設備**

都市ガスを燃料に発電し、同時に発生する熱エネルギーを空調等に利用するシステム。省エネ対策や業務継続・節電・電力ピークカット対策に効果がある。

**4 UPS**

停電が起きた場合、瞬時に予備電源（バッテリー）に切り替わり、一定時間、電力を供給し続ける装置（無停電電源装置）。

**5 国のエネルギー基本計画**

日本のエネルギー需給に関する政策について、中長期的な基本方針を示したもの。

**6 建築環境総合性能評価システム（CASBEE）**

建築物の環境性能を評価し格付けする手法。省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮も含めた建物の品質を総合的に評価するシステムであり、「Sランク（素晴らしい）」「Aランク（大変良い）」「B+ランク（良い）」「B-ランク（やや劣る）」「Cランク（劣る）」の5段階で評価される。

**7 ZEB Oriented** : Net Zero Energy Building Oriented の略称。

延べ面積が10,000㎡以上の建築物を対象とした環境評価システムで、屋根や外壁等の高性能化、高効率な省エネルギー設備の採用により、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する一次エネルギーの収支を40%以上削減することに加えて、省エネルギーに資する先進的な技術を取り入れた建物に与えられる。

**8 BEMS** : Building and Energy Management System（ビル・エネルギー管理システム）の略称。

室内環境とエネルギー性能の最適化を図るためのビル管理システム。

**9 タスクアンドアンビエント照明**

「アンビエント」（周囲環境）照明として控え目の照度で室内全体を照明し、「タスク」（作業）照明として局部的に作業面を明るく照明する方式。

**10 放射空調**

水や空気を通して天井や壁・床等を冷やし（温め）、室温の調整を行うシステム。放射の効果で室内の温度分布が均一になり、気流感もなく快適な空間を作り出す。

**11 デシカント空調**

温度と湿度を分離制御する空調システム。同じ温度でも湿度を下げることで快適さが増し、省エネ運転が可能となる。

**12 大温度差空調**

高性能な冷凍機等を使い、効率的に熱を伝える空調システム。媒体となる水と空気の量を減らしてポンプ容量と配管径を抑えることにより、搬送のためのエネルギーを削減することが期待できる。

**13 パッシブデザイン**

特別な機械装置を使わずに、建物の構造や材料等の工夫によって熱や空気の流れを制御し、快適な室内環境をつくり出す手法。

**14 ライトシェルフ**

窓の中段に取り付ける庇。下部への太陽光直射を遮断しつつ、庇の上面で反射した光を室内の奥まで取り込むことができる。

**15 エコマテリアル**

優れた特性・機能を持ちながら、より少ない環境負荷で製造・使用・リサイクルまたは廃棄でき、しかも人に優しい材料のこと。